

# 中国景気概況(2021年8月)

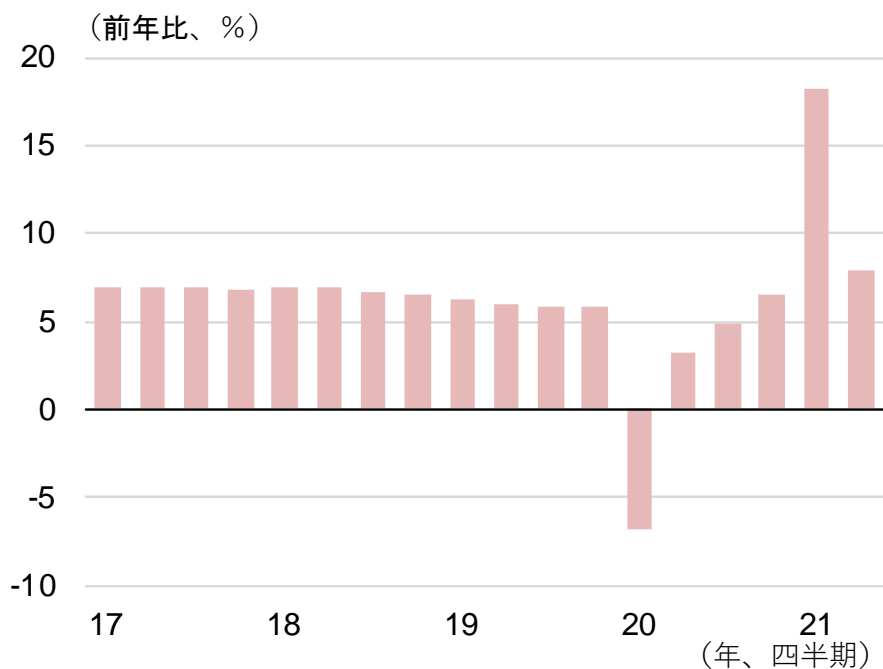
2021年8月3日

調査部 研究員 丸山 健太

# 景気は緩やかに拡大、PMIは堅調を維持

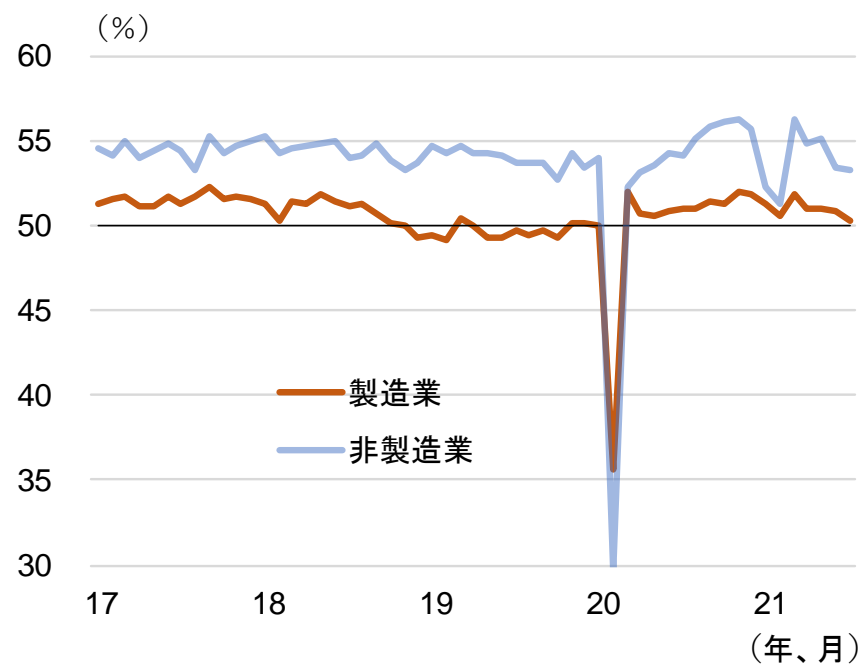
中国経済は緩やかに拡大している。2021年第2四半期の実質GDPは前年比+7.9%と、昨年新型コロナウイルス感染症による落ち込みの反動もあり、大幅な増加が続いた。もっとも、季節調整後の前期比で見ると+1.3%(年率換算値+5.3%)と、感染再拡大への警戒感からサービス消費などの回復が遅れ、コロナ前の勢いを取り戻すには至っていない。7月のPMIは製造業が50.4、非製造業は53.3と、徐々に低下しつつも、景況感の境目である50を上回って推移している。

### 実質GDP(四半期)



(出所) 国家統計局

### PMI

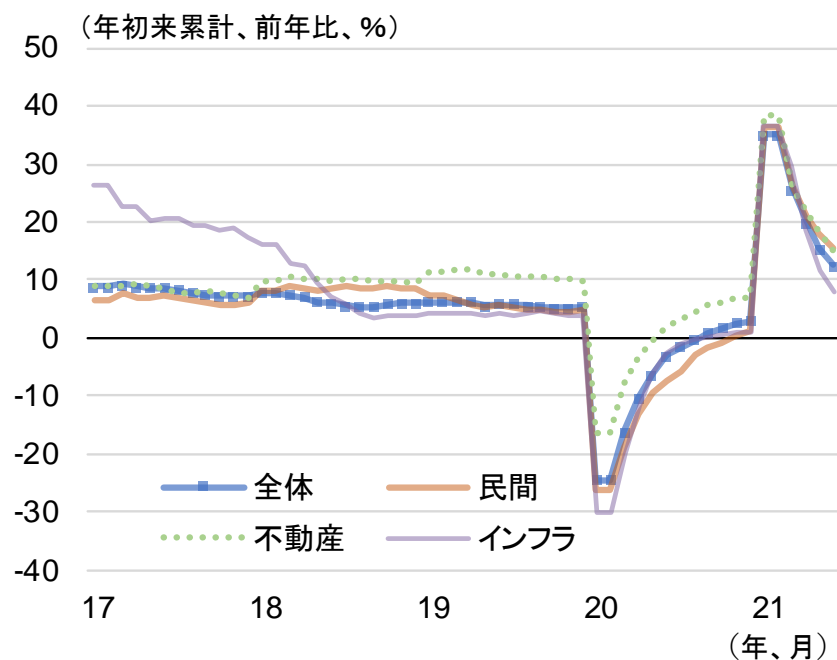


(出所) 国家統計局

## 固定資産投資、生産は増加

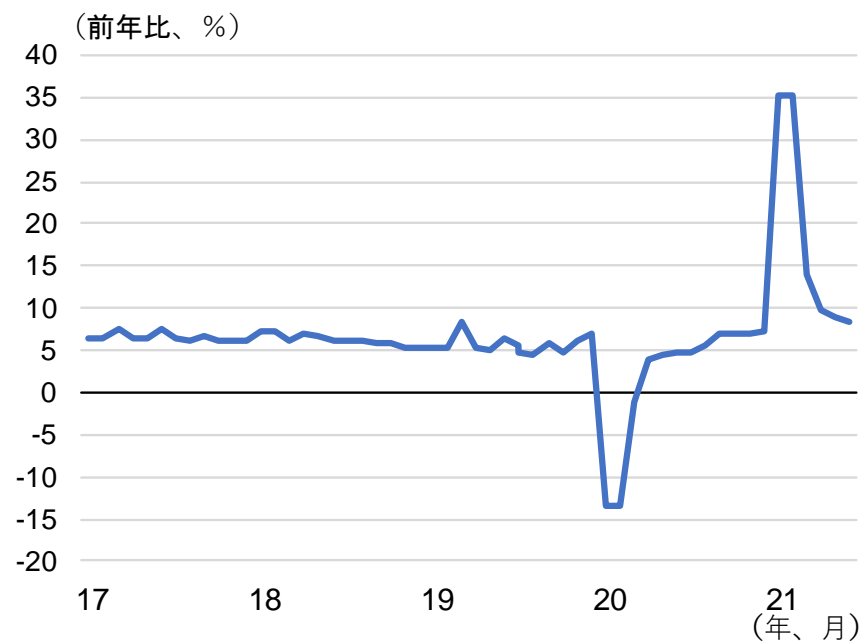
6月の固定資産投資(年初来累計値)は、前年比+12.6%と増加が続いた。民間投資(前年比+15.4%)、不動産投資(同+15.0%)、インフラ投資(同+7.8%)がいずれも増加した。また、6月の工業生産も前年比+8.3%と増加が続いた。コロナの影響を除いた2年前比でみると、医薬品やコンピューターなど、高い技術水準を要する業種での増加が目立った。なお、半導体不足を背景に自動車の生産は減少したが、全体を押し下げるほどの影響はなかった。

### 固定資産投資



(出所) 国家統計局

### 工業生産



(出所) 国家統計局

## 消費は回復、物価は持ち直し傾向

6月の小売売上高(名目)は前年比+12.1%と高い伸びが続き、財消費を中心に個人消費は回復している。ただし、コロナ前の2019年6月との比較で見ると、宿泊や飲食などのサービス消費の改善ペースは鈍い。足元ではワクチン接種の進展など明るい材料はあるが、感染再拡大の懸念を払拭するには至らず、サービス消費の回復には時間がかかりそうだ。

6月の消費者物価上昇率は前年比+1.1%と上昇が続いた。航空券、ガソリン・軽油の上昇が全体を押し上げた。

### 小売売上高(名目)



(出所) 国家統計局

### 消費者物価指数



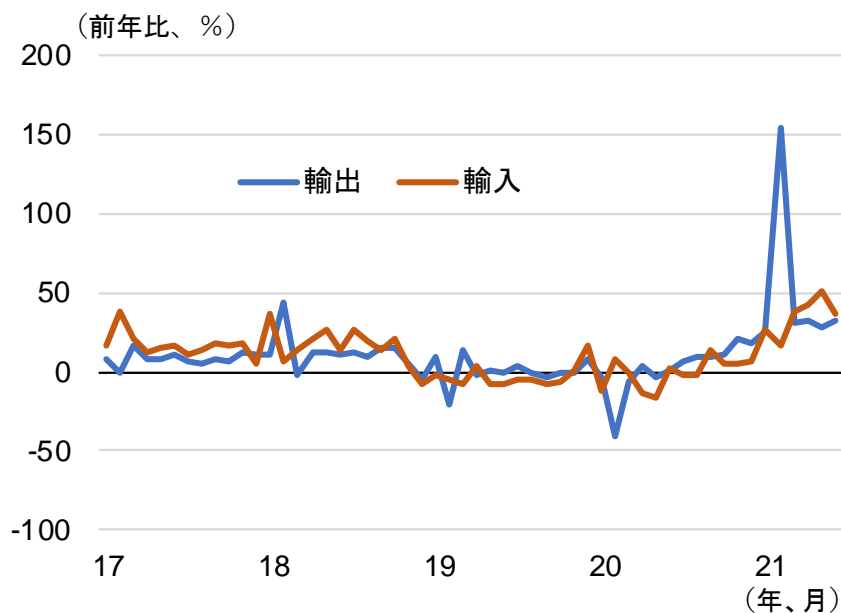
(出所) 国家統計局

# 輸出入とも増加が続く

6月の輸出は前年比+32.2%、輸入は同+36.7%と増加が続いた。貿易黒字は515億ドルと、前年同月(464億ドル)から拡大した。輸出は、品目別では電子部品や自動車・同部品の寄与が、地域別ではASEAN向けの寄与が、それぞれ大きかった。また輸入は、価格上昇が目立つ原油、鉄鉱石や、需要が底堅い電子部品が大きく増加した。

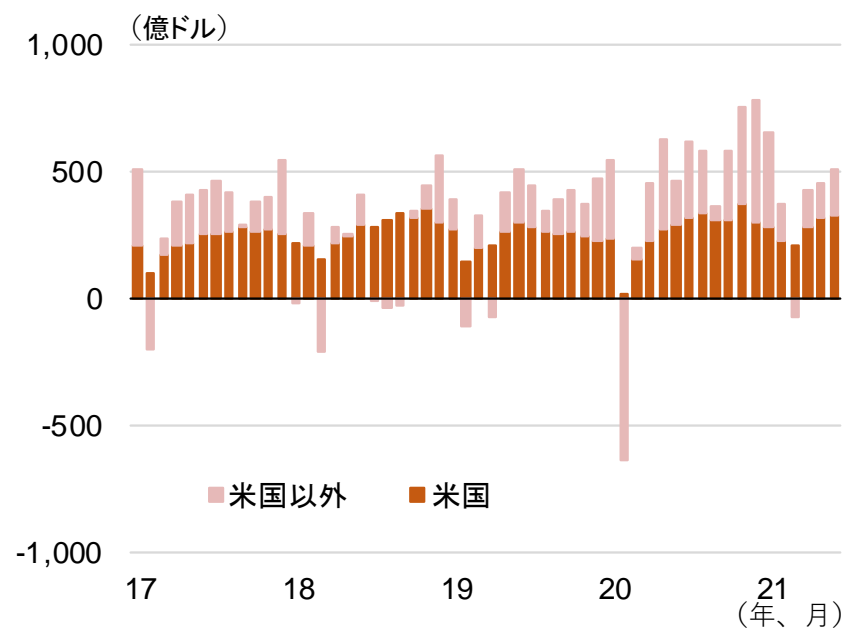
貿易収支は、対米国、対EU、対香港などで、前年同月から黒字幅が大きく拡大した。

### 財輸出入



(出所) 海関総署

### 貿易収支



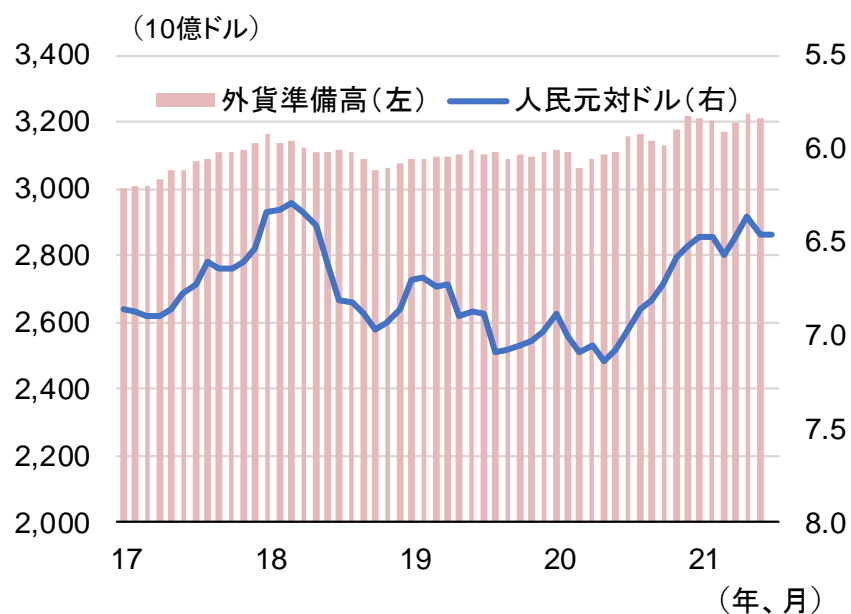
(出所) 海関総署

## 為替は横ばい、株価は下落

人民元の対ドルレート(7月末値)は1ドル=6.46元と、横ばいで推移した。米国経済の堅調さを背景にドル高・元安が進んだが、中国人民銀行が事実上の政策金利である最優遇貸出金利を据え置いたことで、追加金融緩和への期待が後退し、元高方向に戻した。6月末時点での外貨準備高は3兆2140億ドルと、3ヶ月ぶりに減少した。

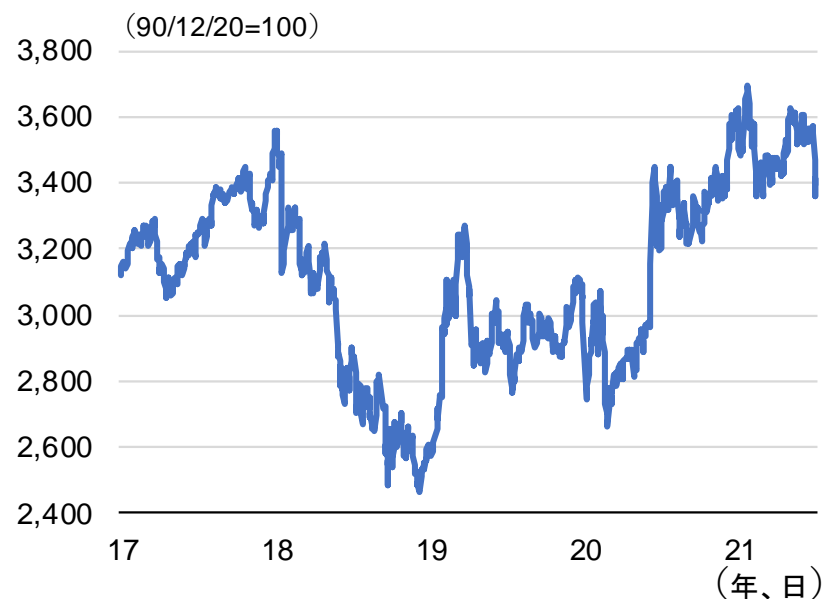
7月の上海総合株価指数は、大手ネット企業や教育産業への規制強化が嫌気され、月末にかけて下落した。

### 外貨準備高



(出所) 中国人民銀行

### 上海総合株価指数

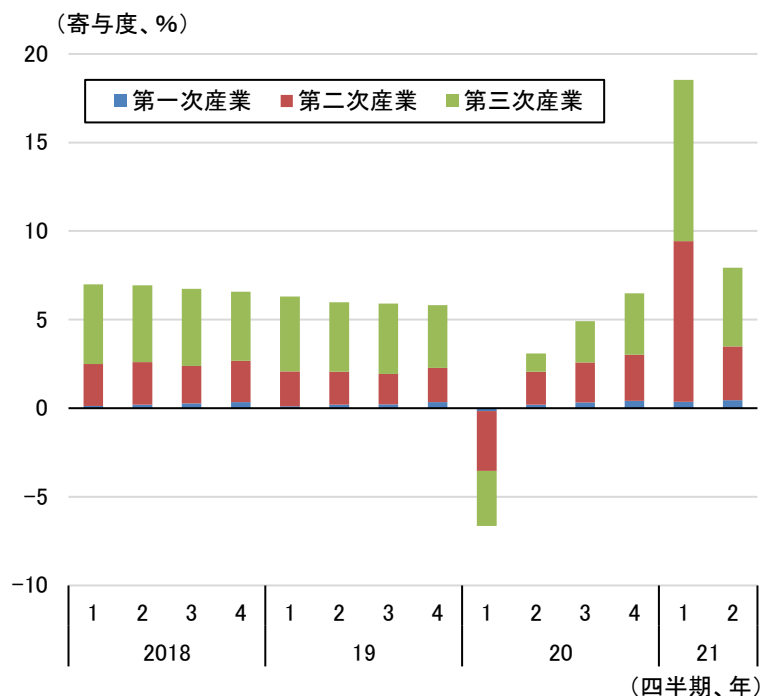


(出所) 上海証券交易所

# 実質GDP成長率の産業別・業種別寄与度

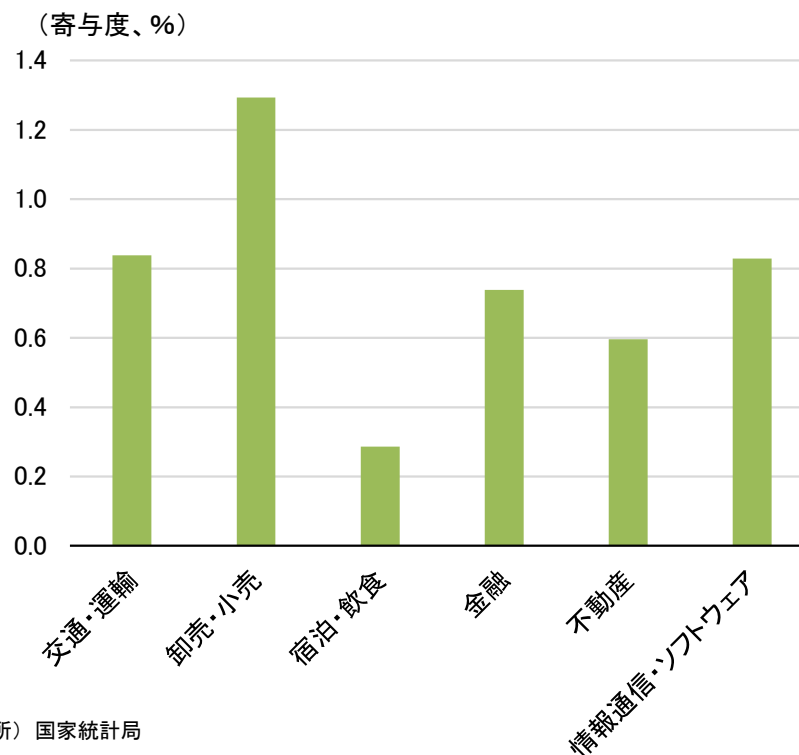
2021年第2四半期の実質GDPは前年比+7.9%と、大幅な増加が続いた。産業別にみると、第二次産業、第三次産業とも増加に大きく寄与する中、後者の寄与度の方が大きい(左図)。第三次産業の内訳をみると、コロナ禍で「宿泊・飲食」といった接触型サービス業が苦戦する一方、オンライン消費が好調だった「卸売・小売」、貨物輸送・宅配需要が強かった「交通・運輸」、テレワーク対応や巣ごもり需要が追い風となった「情報通信・ソフトウェア」の寄与度が大きかった(右図)。

実質GDP成長率の産業別寄与度(前年比)



(出所) 国家統計局

第三次産業における業種別の寄与度(前年比、2021年第2四半期)

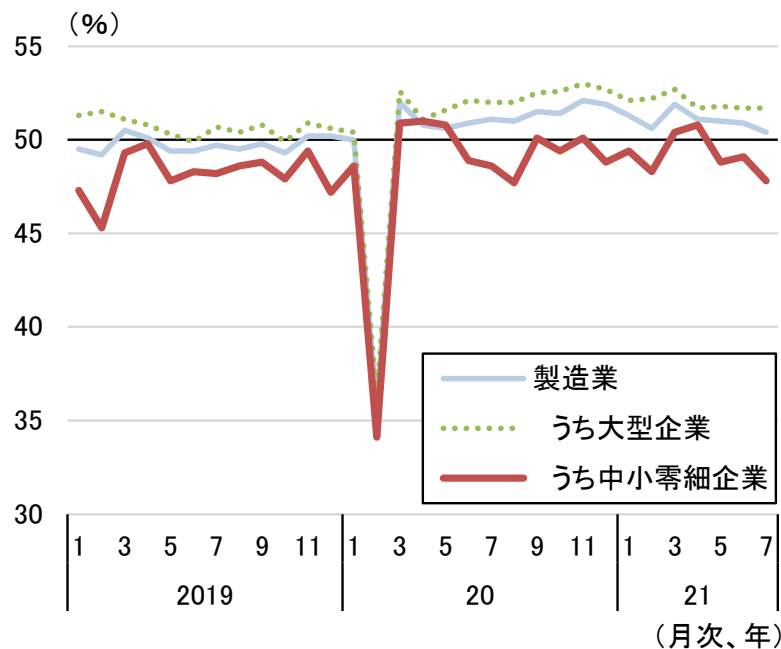


(出所) 国家統計局

# 中小零細企業の収益環境悪化が、製造業PMI低下の一因に

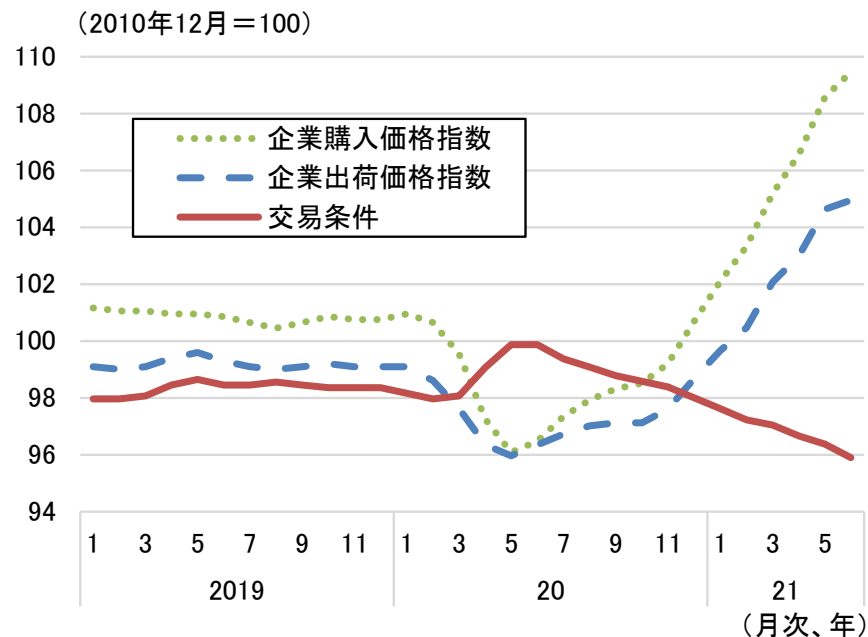
製造業PMIは50超を維持しつつも、徐々に低下している。規模別にみると、大企業では堅調を維持する一方、中小零細企業では50を下回り、低下傾向にある(左図)。国家統計局はその要因の一つとして、資源・エネルギーなどの購入価格の高騰を挙げている。足元で企業の購入価格は出荷価格を上回る速さで上昇し、交易条件は悪化が続いている(右図)。交易条件の悪化は、とりわけ価格交渉力が弱く、出荷価格への転嫁が難しい中小零細企業の収益環境の悪化を招いているとみられる。これに対して政府は、資金繰り支援のために預金準備率を緩和するなどの対策を実施した。

製造業PMI(企業規模別)



(出所) 国家統計局

企業購入／出荷価格指数と交易条件



(注) 交易条件 = (企業出荷価格指数 ÷ 企業購入価格指数) × 100  
(出所) 国家統計局



ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 丸山 TEL:03-6733-1630 E-mail:[chosa-report@murc.jp](mailto:chosa-report@murc.jp)

〒108-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください